



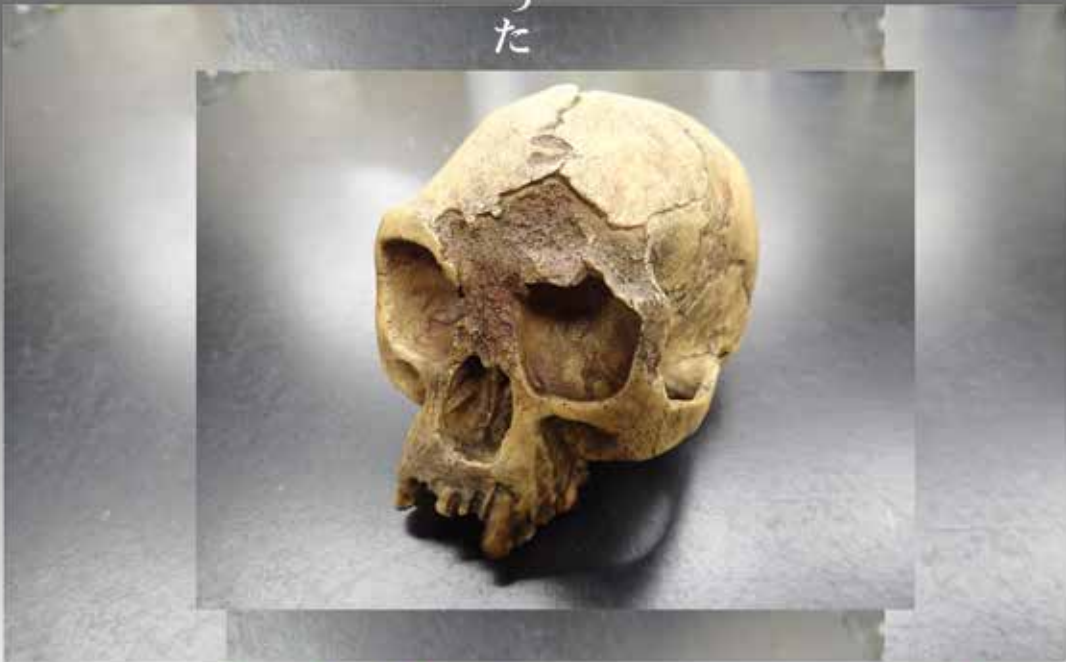
デメテル
Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.73

Newsletter of the Gunma Museum of Natural History 2018.秋

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。

人類学の常識が変わった



第58回企画展

人類進化700万年

新知見をもとに人類誕生から現在までを紹介します

2018年 **10月6日(土) ~ 12月2日(日)**

観覧料 一般 720円 (570円) 高校・大学生 410円 (320円)
中学生以下無料

 群馬県立自然史博物館
GUNMA MUSEUM OF NATURAL HISTORY

第7回企画展の「ネアンデルタール人の謎」から約20年。満を持して人類の進化に関する企画展が開催されます。最新の知見を紹介していけるよう準備を進めています。さて私たちが、最も親しみを感じる人類はネアンデルタール人（ホモ・ネアンデルターレンシス）ではないでしょうか。ネアンデルタール人は私たち現生人類が出現する前の約30万年の間、ヨーロッパで繁栄していました。遺跡は70以上にのぼり275体を超える骨が発見されています。この骨格モデルのベースとなったのは1909年にフランスで見つかったラ・フェラシー1号として知られるネアンデルタール人のものです。骨盤、胸郭、背骨は他の骨格をモデルとしています。この秋、いよいよ彼が出現します。（学芸係 高橋 克之）



第58回 企画展イベント

講演会

「新発見！かつてアジアにいた意外な原人・旧人類」

■日時 10月8日（月・祝）
13:30～15:30
■講師 国立科学博物館 海部 陽介
■定員 100名 ■参加費 無料

「DNAで解明する現生人類の起源と拡散」

■日時 11月25日（日）
13:30～15:30
■講師 国立科学博物館 篠田 謙一
■定員 100名 ■参加費 無料

ワークショップ

「自分の歯形をつくって他の人類と比較しよう」

■日時 11月4日（日）13:30～15:30
■講師 高橋 克之（当館学芸係職員）
■定員 20名 ■材料費（保険料を含む）500円

自然のコラム ヤマビル

豊かな自然は多くの人の心と体をリフレッシュしてくれます。自然を満喫するのは気持ちが良いのですが、自然の中では虫に悩まされる人も多いと思います。森の中で時折見かけるこの不思議な生きもの（写真）がヤマビルです。（*のQRコードでは、動く姿もご覧いただけます）

体長は3cmほどで伸びたり縮んだりします。体の前後にある2つの吸盤を使い、シャクトリムシのように動きます。そして、前部の吸盤内にある歯で皮膚を傷つけ血を吸います。しかし、痛みを感じさせないホルヒネのような物質を出すため吸血されていても気がつきませんし、血液の凝固を防ぐ物質も出すため、吸血後も傷口からの血が止まらない特徴があります。

近年の群馬県内でのヤマビルは、山林から人里へ生息域を広げているようです。これは、ヤマビルが血を吸うニホンカモシカ、ニホンジカ、イノシシ、ニホンザルの生息域の広がりと同じく似ているのではないかとされています。

里山の減少に伴い、森と住宅地が隣接すること

で、今後より吸血による被害が増えるかもしれません。まず第一には、山や森に入るときには皮膚が露出しない服装を心がけ、より詳しく知りたい人は各自で情報を取り寄せ、防御や予防を心がけてください。（学芸係 茂木 誠）



ヤマビル

研究の扉 ぐんまの自然の『いま』を伝える

自然の恵みは、過去から現在に至るまで、地域の人々の資源として暮らしの中に溶け込み利用されるとともに、地域の文化と歴史を育んできました。戦後のライフスタイルの変化とともに、地域の自然から恵みを得て持続可能なかたちで利用し続けるありようが各地で失われていく中で、わたしたちの暮らしに精神的な豊かさをもたらす自然の恵みは、近年、地域の魅力として再び注目されるようになってきました。

群馬県には、このかけがえのない自然を長年にわたって調べ、伝え、守る活動をされている団体や専門機関が数多くあります。これらの方々はその活動を互いに共有し、さらには多様な取組をお伝えしていきたいとの思いから、当館では平成 20 年度から「ぐんまの自然の『いま』を伝える」報告会、平成 27 年度からは、報告



会に加えて、特別展を開催してきました。

冬季に毎年継続して行ってきた報告会もスタートから10年以上が経過し、平成 29 年度は基調講演、口頭発表 5 本のほかにポスター発表が 56 本ありました。発表分野は微小菌類（カビ類）からサイエンスとアートの取り組みに至るまで、これまでにないほど多岐にわたりました。ポスター発表のテーマにあわせて当館の収蔵資料（保坂コレクションを含む）を展示し、特別研究員・清水伸彦さんによるミニ展示「鳥の羽毛コレクション」も設置しました。予算の制約から、手づくりの展示となるため、年に3回行っている企画展とは若干、雰囲気は異なりますが、様々な調査研究の内容と成果とともに実物標本や映像等をご覧いただくことができました。

今年度（平成 30 年度）の特別展「ぐんまの自然の『いま』を伝える」は、平成 31 年 1 月 19 日（土）から 2 月 24 日（日）の開催です。報告会はオープン初日の 1 月 19 日（土）になります。当館職員が日々行っている調査研究の成果も展示しますので、ご期待ください。

（学芸係 姉崎 智子）

鳥の羽毛標本つくりました
鳥の羽毛コレクション

羽根ノート

鳥の色
1枚の羽毛の色は淡く、羽毛が重なって、私たちが目に見える色になります

鳥の模様
1枚の羽毛にある模様が少しずつずれて重なり、私たちが目にする模様になります

鳥の羽毛の役割
保護と保温
飛行のための羽毛、身体を変える羽毛
鳥の羽、種別は太くしっかりしていて強いです。
よくみると、羽毛の軸が少しずれていて、羽を広げたときにしっかりとした板状の構造になります

羽毛の左右
尾羽と尾羽は、羽の軸の位置で左右がだいたいわかります。
羽毛の「さや」と「羽鞘」を上にして置いたとき、
軸が左に寄っていれば左側の羽、右に寄っていれば右側の羽です

博物館ボランティア

自然史博物館では、開かれた博物館として、利用者へのサービス向上と、県民参加による博物館事業の推進、県民への生涯学習の場の提供のため、5区分（解説、資料整理、発送、サタデー、天文・天体）の博物館ボランティアを置いています。それぞれのボランティアは、自分の得意とする分野で自分のペースで自主的に活動しています。今年度の登録しているボランティアは80名です。

解説ボランティアは、館内の常設展示で一般来館者に対して解説します。館内で、緑色のジャンパーを着ている方たちで、展示資料について分かりやすい説明をしていただいています。

資料整理ボランティアは、博物館収蔵資料の標本管理の補助をします。後世に残す大切な資料は、資料整理ボランティアの手で整理されているものも数多くあり、博物館の調査・研究を遂行するために役立っています。



発送ボランティアは、春、夏、秋の企画展に合わせて行われる企画展ポスターやチラシ、博物館だより等の発送作業をします。お届けした博物館の企画展ポスターやチラシがたくさんの方々の目に留まり、たくさんのお客様に来館していただいています。

サタデーボランティアは、毎週土曜日の午後、博物館の実験室で地学・生物に関連する楽しめる観察や実験、ものづくり等を行いその指導に当たります。参加者の皆様が科学体験をしながら学び、楽しめる魅力的なメニューの提供は、サタデーボランティアの活躍あつてのことです。

天文・天体ボランティアは、当館で年間数回行っている天体観望会の補助をします。天体ドームの望遠鏡の操作はもちろん、天体の解説も行い、充実した天体観望会になるように活動していただいています。

今年度も博物館ボランティアを募集します。募集の詳細については、8月1日～9月30日までホームページなどでお知らせします。博物館ボランティアに興味のある方は、ぜひお申込みください。お待ちしております。

「博物館ボランティアの声」

・私はボランティアで月に1～2回程度、常設展示室Aコーナーで来館者への解説を行っています。来館者に来て良かったと感じていただけるように、一方向の説明ではなく双方向のコミュニケーションを心掛けています。来館者と話をしていく中で自分としても日々の新しい発見をする事が多く、またそれが大きな喜びとなり次へ繋がっています。

より皆で楽しめる博物館にするために、緑ジャンパーの私達にぜひ声を掛けていただければと思います。

[解説ボランティア 野口 次郎]

・みなさん、骨は好きですか？私は資料整理ボランティアのは乳類の分野で、骨のクリーニングをしています。私はボランティアを始めるまで、骨にはまったく興味はありませんでした。でも、作業する中で、骨の面白さや奥深さ、素晴らしさを知っていき、今ではライフワークになっています。みなさんも、そんな体験をしてみませんか？私たちと一緒に、知らない世界を覗いてみましょう！

[資料整理ボランティア 中野 梓]

・サイエンスサタデーは、参加される方が毎回多い人気の体験教室です。サタデーボランティアは、そのような教室で説明や補助などの役割があったり、参加される方の良い反応が見られたりするなど、やりがいのある活動です。また、サイエンスサタデーは、博物館職員とボランティアのチームで行います。年齢や経験など様々なメンバーとの交流を通して、学んだこともたくさんありました。今後も楽しみながら活動していきたいです。

[サタデーボランティア 山口 裕子]



(教育普及係 月田 典寿)

利用案内

■開館時間 午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)

■休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)

■観覧料

	一般	高校・大学生
常設展のみ開催	510円 (410円)	300円 (240円)
第58回企画展開催時 (H30.10.6～12.2)	720円 (570円)	410円 (320円)

※中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。

※()内は、有料者20名以上の団体料金となります。

群馬県立自然史博物館だより Demeter No.73

編集・発行 群馬県立自然史博物館
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250
ホームページ
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>



Demeterは、地球環境保全のため植物油インクを使用しています。